

事業 プロセス	環境配慮 方針/措置	基本計画段階	設計段階	工事段階	供用段階	留意事項
<p style="text-align: center;">工 法 ・ 工 期</p>	<p style="text-align: center;">/措置</p>	環境配慮方針01：景観の統一感を損なわない工事計画				
		<ul style="list-style-type: none"> ・地山の露出を最小限に抑えるとともに、必要に応じて緑化を行い、景観の統一性に配慮する。 ・工事現場の周囲には周辺景観と調和した防護柵等を設置し景観の保全に努める。 	<p>【外部景観に対する配慮】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工事实施にあたり、外部景観に対する十分な配慮を検討することとする。 <ul style="list-style-type: none"> ・地山の露出を最小限に抑えるとともに、必要に応じて原状復旧及び緑化などの対策を講じ、景観の統一性を確保することとする。 <p>【工事段階での配慮】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防護壁等の設置にあたっては、色彩及び柄、素材などが周辺景観と調和する製品を選択し、景観の保全に努めるものとする。 <p>【工事規模および用地の最小化】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施工は既存施設の敷地内で実施することとする。 ・工事施工ヤードは現行駐車場等の既存の施設跡地を活用し、工事用道路は既存道路を使用することとする。 <ul style="list-style-type: none"> ・既存の施設跡地及び既存道路以外で工事施工ヤード及び工事用道路が必要となる場合においては、スキー場や公園など既に造成地として利用されている区域を活用することとし、随時、事業者及び関係各所と協議を行い、決定することとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ⇒切盛土の発生を抑制し、掘削範囲や地山の露出を最小限に抑え、景観に対する影響を最小限に抑えた。 ⇒切土法面に設置したシートや防護壁等周辺景観と調和するように色等の配慮をした。 ⇒工事規模および用地の最小化を実施し、景観に対する影響を最小限に抑えた。 ⇒杭打ち（山留杭）工事の施工にあたり、後方小旋回型であるリーダーレス型基礎機械（SRX3500）による杭打ちを行うことにより、切盛土の発生を抑制し、親杭横矢板工法による土留を行い、掘削範囲を最小限で施工している。 ⇒地山の露出を最小限にする為、上記等の工法を選択し、切土法面に設置したシートは、緑色を使用し周囲の景観と合わせている。 ⇒工事施工ヤードは、既存の敷地内を活用し、仮囲いを設置する際には、登山者及び周辺を意識した配色（緑色・グレー）を選定し、景観の保全に努めた。但し、一部、性能を重視する必要がある箇所等については、白色となっている。 ⇒施工は既存施設の敷地内で実施している。 ⇒工事施工ヤードは、山麓駅舎及び駐車場等跡地を利用している。 ⇒山頂エリアにおいて、登山者用の休憩所・トイレ及び休憩スペース（芝生箇所）を確保して、施工ヤードを仮囲いにて区画し、最小限に努めた。 ⇒スキー場から中腹・山頂エリアにおいて、工事施工期間、登山道が一部通行出来なくなるため、観光道路を保安施設で識別し、代替の登山道を確保した。 ⇒仮囲いが、一部伏見東緑地内に入らざるを得なかった為、管理者である札幌市と協議を行い設置した。 ⇒スキー場から中腹・山頂エリアにおいて、工事施工期間、登山道が一部通行出来なくなるため、観光道路を保安施設で識別し、代替の登山道を確保した。 		